

令和 3 年 5 月 24 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2020

課題番号：15K02802

研究課題名(和文) 語用論的指導を奨励する教員サポート体制の整備とこれからの語学教員教育

研究課題名(英文) Enhancing professional development for language teachers implementing pragmatics-focused instruction

研究代表者

石原 紀子 (ISHIHARA, Noriko)

法政大学・経営学部・教授

研究者番号：90523126

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：今日の日本の英語教育において、言語運用能力の不可欠な構成要素である語用論的能力(状況にふさわしい適切な英語を用いる能力)は十分に指導されておらず、語学教員の養成においてこの領域の知識や指導技能の拡大を図ることが肝要である。本研究では、語学教員が語用論的指導をする際に重要な資料となるデータベースの更新、語学教員対象の語用論的指導に関する書籍の増補・改訂、米国およびイタリアの教員養成における語用論的指導の検証と日本の教員養成への応用の三点を中心に、語学教員養成における語用論的指導の向上に貢献した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

英語教育の現場で語用論指導を適切に行うためには、まず教員が語用論的ことばの使い方に関する意識を高めその指導法に精通していなければならない。本研究は、語学教員を対象にそのような研修や講座を提供し、教員の学びを検証して更なる教員の知識や技能の発展を図る意義がある。語用論的指導に関するデータベースや研究代表者が担当している語学教員対象の研修では、実践的な内容を扱うため現役教員や教職課程の学生にも受け入れやすく教育現場に活用できるため有用であるとの評価を得ている。教員の認知に関する検証を重ね、グローバル化が進む中での国際語としての英語指導や言語複合主義などについても重要な示唆を提供する。

研究成果の概要(英文)：Pragmatic competence (namely, ability to use language appropriately in the sociocultural context) has not been adequately incorporated into today's English language education in Japan. This points to the importance of enhancing language teachers' professional development in the area of instructional pragmatics.

This research project assisted in filling this gap by: 1) updating an open online database useful for pragmatics-focused instruction, 2) revised and expanded a teachers' resource book on teaching and assessing L2 pragmatics, and 3) researched teachers' professional development in general and in teaching L2 pragmatics in the U.S. and Italy and explored its potential application to the Japanese context.

研究分野：語学教員対象の教師教育

キーワード：教員養成 教師教育 教員のプロフェッショナル・デベロップメント 語用論的指導 プラグマティックス指導 多文化理解 教員アイデンティティー

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

語用論的能力(プラグマティックス能力、つまり状況にふさわしい適切な英語を用いる能力) は言語運用能力の不可欠な構成要素であることが 1980 年代から理論的に確立されている。また語用論的能力 (プラグマティックス能力) は、教室内指導により涵養できることが 1990 年代より実証されており、国内外で様々な指導法や指導案が出版され教員の関心も高まっている。しかし今日の日本の英語教育において、状況にふさわしい適切な英語の使い方が十分に指導されているとは言い難く、語学教員の養成においてこの領域の知識や指導技能の拡大を図ることが急務である、というのが研究開始当初の背景であった。

2. 研究の目的

前述のように、理論上では語用論的能力の指導の有効性が確立しているが、教育現場への応用が進んでいない状況であった。語用論的能力の指導に関する様々な研究や実践的な指導書が近年数多く出版されているにも関わらず、今日の国内外の語学教育の現場には、語用論的能力の向上を目指し多文化間理解を念頭に置いた言語指導がほとんど行われていないのが現状であった。これは語用論的指導が語学教員教育において深く、そして実践的に扱われていないこと、そして語学教員自身の語用論的能力やその明示的知識が十分に発達していないこと、語用論的指導をするための教材や教員対象のリソースが限られていることなどに大きな原因があると思われた。

この事態を改善するため、本研究では、語学教員を全面的にサポートするための資料を整え、それらを利用した研修の機会を提供しその効果を検証する一方で、海外での語学教員養成の事例についても検証し、日本における語用論的指導の教員養成への応用を検討することが目的であった。

具体的には以下 4 点に焦点を絞って語学教員養成における語用論的指導の充実を図った。

語学教員が自身の語用論的能力を高め、語用論的指導をする際に重要な資料となる米国政府研究機関のインターネット上のデータベースの更新

語学教員対象の語用論的指導に関する書籍の増補・改訂

上記 の内容を講演やワークショップなどの研修を通して紹介、この領域での語学教員のプロフェッショナル・ディベロップメントを提供、及びその効果の検証

語用論的指導に特化した米国での教員養成、そしてオンライン学習を利用したイタリアの教員養成の事例研究、および日本における語用論的指導の教員養成への応用の検証

3. 研究の方法

上記 語用論的指導において重要な資料となるインターネットサイトの更新では、研究者からの情報提供を呼びかけ、出版された論文の中から重要な情報を抽出することによって、扱う語用論のテーマを拡大しリソースを拡張・整備した。

では、2010 年に出版された語学教員対象の語用論的指導・評価に関する書籍の増補・

改訂を行ったが、これまでに出版された研究による知見を盛り込みより幅広い語用論的指導について紹介し、自ら行った小学生の語用論的習得に関する研究から、幼少の学習者を指導するための実践的な例も多数盛り込んだ。

については、前述した語用論的指導に関する情報を、教員養成講座・講演・ワークショップなどを通して広く紹介し、この領域での語学教員の研修の機会を提供した。その際、可能な限り、参加教員の学びについて、エスノグラフィーの手法を用いてデータを収集し、教員養成や研修の効果や影響を検証した。主なデータは、研究参加を承諾した教員の授業中またはその後の省察、ディスカッションの音声・映像・文字記録、および課題などの提出物、教員の学びについての教師教育者のフィールドノート、研修・講座終了後のインタビューとそのトランスクリプトである。

で述べた米国やイタリアでの事例研究には、と同様のエスノグラフィーの手法に加え、授業見学や教員インタビューを多用し、教員養成者や教員と協働で教員の認知やアイデンティティー、それらが教室内の実践に及ぼす影響について深く研究した。

4. 研究成果

第一に上記の米国政府研究機関（CARLA, Center for Advanced Research on Language Acquisition）のデータベースの更新では、リサーチ・アシスタントと共に米語・豪語・フランス語の「挨拶」および米語・フランス語・スペイン語の「招待」の項を新たに作成した。CARLAの協力を得て文献の引用許可を申請し、その結果を反映して改訂した草稿を最終的にウェブサイトアップして完了した。なお、新設された「挨拶」と「招待」の項を紹介した記事は、全国語学教育学会語用論部会のニュースレターに掲載された。このデータベースは様々な国の語学教員によって利用され、しばしば研究論文や実践報告に引用されている。

第二に、で述べた研究代表者の共著である書籍 *Teaching and learning pragmatics* の改訂は、主にその作業を単著で行うことになったため、それに伴う出版社との交渉を重ねることが必要となった。語用論指導の対象となるトピックや学習者層の拡大に加え、国際語としての英語の語用論的指導や、グローバル化の中での言語複合主義についての視座も盛り込み、多くの例を挙げながら国際化した現代における語用論的指導について提言を行った。この第二版は2021年9月にRoutledge社より出版予定となっている。

この改訂のために研究代表者が執筆したレスンプランや論文2点は全国語学教育学会（JALT）の語用論部会の出版物(Ishihara, 2017; Ishihira, 2020)に掲載された。さらに、書籍の改訂で最も大きな改訂となった国際語としての英語の指導に関する視座については、改訂と並行して国際学術査読ジャーナルや書籍に論文を執筆し(Ishihara, 2017; Taguchi & Ishihara, 2018)、また応用言語学のハンドブックの一章としても発表した(Ishihara, 2019a, b)。

第三に、講演や研修などを通し語用論的指導の領域での語学教員の発展に寄与する計画については、2018・2019年度には米国のミネソタ大学にて語用論的指導に特化した語学教員対象のオンライン講座を担当した。この講座には世界各国から計24名の教員が参加した。2019年度の講座では、参加教員の学びについてデータ収集も行き、参加教員の一人と共著で書籍の一章を執筆した (Ishihara & Porcellato, 近刊)。研究休暇中であつた2016年度を除く2015 - 2020年度には毎年、国内の教職大学院にて語用論的指導のテーマで必修授業

を提供した。2017 年度には国際語としての英語の指導について参加教員にインタビューを行い、書籍の一章を執筆した (Ishihara, 2021)。

第四に、外国の教員養成の事例研究 では、米国やイタリアの研究者と協働し、米国内外における大学院レベルの語学教員養成、およびイタリア国内の初等教育での英語教員養成について授業見学やインタビューやシラバス研究を通じた調査を行い、学会発表と論文の執筆を行った(Vellenga & Ishihara, 2016; Ishihara & Menard-Warwick,2018; Ishihara & Richieri, 2016)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 7件/うち国際共著 5件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Ishihara, N. & Lee, H. E.	4. 巻 180
2. 論文標題 Face and (im)politeness in aviation English: The pragmatics of radiotelephony communications	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Pragmatics	6. 最初と最後の頁 102-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.pragma.2021.04.030	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Ishihara, N., & Prado, M. C. A.	4. 巻 105
2. 論文標題 The negotiation of meaning in aviation English as a lingua franca: A corpus-informed discursive approach	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Modern Language Journal	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Ishihara, N., Carroll, S., Mahler, D., & Russo, A.	4. 巻 79
2. 論文標題 Finding a niche in teaching English in Japan: Translingual agency and identity negotiation	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 System	6. 最初と最後の頁 81-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.system.2018.06.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Taguchi, N., & Ishihara, N.	4. 巻 38
2. 論文標題 The Pragmatics of English as a Lingua Franca: Research and Pedagogy in the Era of Globalization	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Annual Review of Applied Linguistics	6. 最初と最後の頁 80-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/S0267190518000028	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ishihara, N., & Menard-Warwick, J.	4. 巻 37
2. 論文標題 In "sociocultural in-betweenness": Exploring teachers' translingual identity development through narratives	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Multilingua: Journal of Cross-Cultural and Interlanguage Communication	6. 最初と最後の頁 255-274
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/multi-2016-0086	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ishihara, N.	4. 巻 6
2. 論文標題 Teaching pragmatics in support of learner subjectivity and global communicative needs: A peace linguistics perspective	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Idee in Form@zione: Periodico per la formazione degli insegnanti: Professionalita docente ed efficacia educative	6. 最初と最後の頁 17-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ishihara, N. & Richieri, C.	4. 巻 -
2. 論文標題 A teacher development program for primary English teachers in Italy: A blended approach to learning English and language teaching methodology	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 言語教師認知研究 研究収録 2016	6. 最初と最後の頁 109-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 Ishihara, N.
2. 発表標題 (Im)politeness negotiations in Aviation English as a lingua franca
3. 学会等名 16th International Pragmatics Conference of the International Pragmatics Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishihara, N.
2. 発表標題 A Narrative Approach to Teaching Pragmatics and Intercultural Awareness: Learner and teacher development
3. 学会等名 Japan Association for Language Teaching Kochi (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishihara, N.
2. 発表標題 Negotiating agency in educational sites: A narrative study of multilingual socialization of a language teacher
3. 学会等名 International Pragmatics Association (IPrA) Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ishihara, N.
2. 発表標題 Translingual practice in the JET Program: A narrative approach
3. 学会等名 The 3rd Language Education in Global and Multilingual Context (LEGMC) Colloquium (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ishihara, N.
2. 発表標題 Linking principles and pedagogy in teaching the pragmatics of English as a lingua franca
3. 学会等名 Annual Conference of American Association for Applied Linguistics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ishihara, N.
2. 発表標題 Researching teacher development in pragmatics
3. 学会等名 50th Annual TESOL Convention (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ishihara, N.
2. 発表標題 Applying pragmatics theory and pedagogy to professional development for diplomats: A Peace linguistics approach
3. 学会等名 3rd International Conference of the American Pragmatics Association (AMPRA) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Vellenga, H. & Ishihara, N.
2. 発表標題 Teacher development for teaching pragmatics: Sprinkled throughout?
3. 学会等名 3rd International Conference of the American Pragmatics Association (AMPRA) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ishihara, N. & Menard-Warwick, J.
2. 発表標題 Translating intercultural experience into classroom practice
3. 学会等名 Tenth International Conference on Language Teacher Education (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ishihara, N.
2. 発表標題 Agency in language teaching: Translingual practice and identity negotiation
3. 学会等名 Cluster for Language Research (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ishihara, N.
2. 発表標題 Teaching the pragmatics of English as an international language (EIL): Some ideas and examples
3. 学会等名 51st Annual TESOL Convention (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ishihara, N.
2. 発表標題 Teacher development through a narrative approach to teaching intercultural communication and pragmatics
3. 学会等名 JACET 22nd Language Teacher Cognition SIG Meeting (招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Eslami, Z. and Ishihara, N.
2. 発表標題 Instructional Pragmatics: Teaching students to use language appropriately
3. 学会等名 13th International TELLSI Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Ishihara, N.
2. 発表標題 Identity and pragmatics: Implications for second language acquisition and instruction
3. 学会等名 13th International TELLSI Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 Ishihara, N., Orihashi, T., Clark, Z et al.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 295
3. 書名 Innovations in language learning and teaching: The case of Japan	

1. 著者名 Ishihara, N., Gao, X., Davison, C. et al.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 1232
3. 書名 Second handbook of English language teaching	

1. 著者名 Taguchi, N., Ishihara, N., et al.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 522
3. 書名 The Routledge handbook of Second Language Acquisition and pragmatics	

1. 著者名 Liontas, J. I., DelliCarpini, M. Ishihara, N. et al.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 John Wiley & Sons	5. 総ページ数 -
3. 書名 TESOL Encyclopedia of English Language Teaching	

1. 著者名 Friedrich, P., Gomes de Matos, F., Ishihara, N. et al.	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Multilingual Matters	5. 総ページ数 204 (20-41)
3. 書名 English for Diplomatic Purposes	

1. 著者名 Benati, A., Yamashita, S., Ishihara, N. et al.	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 222 (187-218)
3. 書名 Theory, research, and pedagogy in learning and teaching Japanese grammar	

1. 著者名 Tatsuki, D., Fujimoto, D., Ishihara, N. et al.	4. 発行年 2016年
2. 出版社 JALT Pragmatics Special Interest Group	5. 総ページ数 139 (108-122)
3. 書名 Back to basics: Filling the gaps in pragmatics teaching materials	

1. 著者名 Tomlinson, B., Masuhara, H., Ishihara, I., Paller, D. L.	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 307 (87-102)
3. 書名 SLA research and materials development for language learning	

1. 著者名 Ishihara, N. with Cohen, A.D.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 未定
3. 書名 Teaching and learning pragmatics: Where language and culture meet (2nd ed.)	

1. 著者名 Felix-Brasdefer, J. C., Shively, R. L. Ishihara, N. et al.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 De Gruyter	5. 総ページ数 342
3. 書名 New directions in researching, teaching, and assessing L2 pragmatics	

1. 著者名 Tarandis, J., Ronald, J., Fujimoto, D., Ishihara, N. et al.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Japan Association for Language Teaching Pragmatics SIG	5. 総ページ数 210
3. 書名 Pragmatics undercover: The search for natural talk in EFL textbooks	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Academia.edu Noriko Ishihara
<https://hosei.academia.edu/NorikoIshihara>

ResearchGate Noriko Ishihara
https://www.researchgate.net/profile/Noriko_Ishihara

Noriko Ishihara
<https://ishi0029.wixsite.com/norikoishihara>

CARLA (Univ. of Minnesota) Pragmatics/Speech Acts
<http://carla.umn.edu/speechacts/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	Carnegie Mellon University	University of California, Davis	University of Minnesota	他4機関
イラン	Allameh Tabataba'i University			
イタリア	ANFIS (全国教師教育協会)	University of Verona		